



## 優先座席

神戸大学 経済経営研究所  
助教 正田 ヴェラ パオラ レイエス

今回私が担当するコラムでは電車にある優先座席の経験についてご紹介します。

日本の大学で留学中に日本の文化の授業で電車のマナーなどを勉強しました。そこで電車の「優先座席」を知りました。優先座席とは鉄道車両やバスなどに設置されている、身体障害者、妊婦（マタニティマーク）、乳幼児連れ（ベビーカー含む）、高齢者などの着席を優先させる座席です。そのため、私は電車やバスに乗るときは優先座席には座らないようにしていました。私は居眠りする癖があり（よく停留所乗り遅れる）、特に混雑しているときは周りの人に気づかないのです。私は優先座席を避けるため、妊娠するまでその様子を観察したことがありませんでした。

2021年に妊娠し、市の保健センターからマタニティマークを受け取りました。電車やバスに乗るとき優先座席に座るためにカバンにつけていました。しかし、非常に残念なことに、十分に元気そうに見えて、優先座席に座るべき人々のカテゴリ（妊婦、障害のある人、特別な支援が必要な人々、子供連れの人々、高齢者）に入っていない人が誇らしげにそこに座っています。サラリーマンや若者の人たちです。さらに悪いのは、相手が寝ているか、イヤホン挿してスマホに夢中になっているため、席を譲ってほしいと声をかけることができないことです。優先座席の意味に疑問を持ち始めました。そもそも優先座席に座る資格のない人がそこに座るのであれば、少なくともその席を必要とする人が周りにいるかどうか気づくだけの注意力を持たなければならないと思います。

特に妊娠初期のつわりはかなり辛いです。また、妊娠後期はつわりが落ち着いてもお腹が大きくなるので、移動中の電車やバスでも座れるととても助かります。ただでさえ人間をお腹の中でつくるのは大変なのですから、せめてこのサラリーマン達が妊婦の通勤をこれ以上大変にしないで欲しいと思います。

残念ながら、優先座席の悪夢は妊娠で終わるわけではありません。出産後は、赤ちゃんを連れて電車やバスを利用して通勤せざるを得ない場合もあります。妊娠中と同じ問題に再び直面しました。今は子供がいますが、優先座席にサラリーマン達が座っていることが多く、座ることができません。私自身の経験では、サラリーマン達の中には気づかないふりをする人もいます（私をちらっと見て寝たふりをしていました）。私が運が悪いただけかもし

れないと思い、他の人も同じような経験をしているかツイッターで確認してみると、悲しいことに皆が私と同じ理由で優先座席を利用できないと言っています。

日本政府は人口減少に歯止めをかけるためにさまざまな改革で子どもを産むよう呼びかけていますが、優先座席のマナーなど簡単なことがきちんと周りに周知されていない気がします。

多くの企業や団体も、女性の成長と労働力への参加を支援するプログラムに取り組んでいます。しかし、プログラムの実施についてはまだ認知度が低く、働く女性が日常生活で経験しなければならない困難を理解していない（理解しようとしな）人もいると思います。

2022年7月、世界経済フォーラムは世界男女格差報告書を発表しました。この報告書では、日本は116位とG7諸国の中で最下位となっています。日本より発展途上国ではありませんが、私の出身地であるフィリピンは世界第19位、東アジアおよび太平洋地域では第2位にランクされています（カナダ、イタリア、米国、英国などの他のG7諸国よりもさらに高い）。フィリピンで育った私は、ジェンダーギャップの問題をあまり感じませんでした。しかし、日本に住んでいるうちにその違いが見え始め、今ではジェンダーギャップは真剣に受け止めるべき世界的な問題であると認識しています。

私は現在第二子妊娠3ヶ月ですが、優先座席や働く女性全般の待遇などが問題になっている中、今はできる限りの努力をし、早く状況が良くなることを祈るばかりです。私は、日本政府の改革と努力によって、働いている女性と働いていない女性の条件が改善されることを心から願っています。なぜなら、彼女たちはそれを受けるに値するからです。